

1945年（昭和20年 辰雄41歳）

小池辰雄書簡（妻への手紙）（4）

（宛先）岩手県一ノ関町川街 小池順子様

（群馬県吾妻郡嬭恋村新鹿沢）小池辰雄

——1945年7月5日——

その後、移転の件はどんなになっていますか。毎日、相変わらずいそがしい日を暮らしているのでしょうか。東京あたりは常食の問題が相当深刻の様ですね。しかしそろそろいろいろな野菜、ジャガイモも出てくるでしょう。立教から清子に必要な書類はその後とどきましたか。余りノンキなので驚きます。北村さんの所番地、知っていたら教えて下さい。この間、お役所の方へ出したが返事がありませんので。陳君はハリキッテやっています。自転車で山野をかけめぐっている由。万余の人たちを相手だから大変でしょう。二人では是非僕にいつか来る様など言ってくると思いますが、卒業式がこの月の下旬多分27日頃にあり、それから若し日数があつたら、陳君のところへよつてから、東北をたずねたいと思っていますが。余裕がなければ勿論、東北だけにします。今、ラジオでそちの方への偵察に行きはじめてたらしいので、充分、警戒して下さい。万一が馬鹿にならない可能性をもっていますから。特に行李に大切な必要品をつめて普段から準備をして置きなさい。そして、必ず荷札をつけ、記名を墨でして置く様に。あの壕か畠の中に出して置けば余程安全だと思います。それもあるべく縁側近く。普段からつまかさねて置くことですね。中市といえど本線沿線なる一ノ関は可能性充分！ 而もあの大きな国民学校に近いのですから！ 移転は一日も早いがよいですが、私がこんど一ノ関へ行ったら強行したいと思っています。是非、下準備をして置かれたし。何とかして7月下旬にそれも末頃でしょうが行きます。

梅雨もそろそろ開けますね。今こちらは雷雨で、雷雨特有の爽快かな風があります。今日で学年試験は終わりました。採点も今すませたところです。あとは10日語学の研究会、小生がまた総合演習の時と同様、引き受けて一席やります。ファウスト論をしようと思つたけれども（そのため想当いい勉強をしました）、次回として、外国語征服の道としてヘブライ語やアラビヤ語の勉強法を土台に、ドイツ語で仕組んでみようと思っています。

語学科は全部、ここに居とどまることになりました。秋まで。ここで61期乙の半分を教え、そして秋から冬にかけて榛名山の北麓の中之条というところへ移ります。そこで別な半分の生徒を教えるわけです。ですから気候の上からは万点です。いつも涼しいところに居る様なわけです。ここは今でも蚊帳をつりません。7月下旬に東京へ帰ったら暑いことでしょう。但し、冬のスキーの楽しみはそれではなくなりました。



沖縄の玉砕に伴い、空襲がはげしくなり、みんなにあえるのもこの次一回位の様な気がします。しかし、北の方の鉄道をつかえばまだ折りがあるかも知れませんが。郵便の自由もさほど長くはつづかぬでしょう。せいぜい、手紙の上でおはなしをしましょう。一週一回はどうしても何か書いて下さい。ハガキはいけません。外の連中がよんだりますから。一月に五回位、欲しいですね、すごいラヴ・レターを……。

こちらでは副食物が貧弱だと時折たまらなくなつて、会食をして宿屋からとりよせます。ロシア語の連中の宿っている宿屋が最も豊富で、彼らはよく御馳走を食べています。少しどうかと思う位に。二、三日前、木内君が保険の3千円が入ったというので皆におごりました。豪華版でした。トンカツを二人前、ワカサギのフライも二人前……でハリキりましたね。どうもくだらないことをなりましたが、戦争中は食べ物のなしが無難でしょう。夢路で順子にあつて、そのさきは……。もう50キロを突破したでしょう。

長崎のカステラ、クーヤのモナカ、トラヤのヨーカン、中村屋の支那マンジュ、ミツコシにならんでいたビスケットの数々、等々の昔ものがたりは、こちらでもやっています。木内君は生粋の江戸っ子、下町のふだものですから、日本橋、銀座のことをくわしいので。こっちへ来てから、勉強がよく出来て、うれしくあります。これが勝利の日となつたらどんなに嬉しいでしょう。その平和の日まで何でもガンバッテ下さい！ 小さい照雄が日増しに大きくなるのはたのしいでしょう。こんど会うときのしみです。やはり、末の子というものはそういうものでしょうか。しかし、子供たちの一人一人が本当に可愛いです。遠くに居ると余計そうなのでしょう。銘々、性格がそれぞれ特徴があるだけ面白いのです。僕の代わりに僕の分まで子供の教育のことはしっかりして下さい。神を畏れ、神を信頼する魂となる様に、母親の敬虔なるお祈りやおはなしが極めて大切であることをよく銘記して実行して下さい。大きくなって、危機に人の魂を救うものは、母親の小さいときの印象ですよ！

小さい人たちにも度々たよりをしたいのですが、他人の家に居るので、また比較や妬みのもとになつてはと、控えています。みんなからまた同封で書いて下さい。

私は20日頃、生徒一同と上京します。折角ここで仕上げた生徒たちに空襲による被害なからんことを祈ります。こちらで卒業式をやればよいのにと我々の仲間では言いあつています。では今日はこれでサヨナラ。

順子！ 7月4日、Ich umarme dich! 辰雄

（佐藤勲君のことはその後、松田君から何とも言つて来ません。関根君も着いたのか未だわかりません）

*

順子！ 7月5日午、辰雄。

7月1日付の御芳書拝見。最後の荷物も無事に着いて安心しました。自転車のタイヤは（後



輪の）新しくなっていましたか。それともコーヤク張りになっていましたか。荷物小屋の中に入れて置けばいたみませんか、シマツテ置いて下さい。こんど一ノ関へ行ったら小生が大いに使います。佐沼までは行けなくとも、平泉あたりなら行けるでしょう。七輪はいつもながら困ったものですが、やむを得ませんね。棒炭も工夫してお使いなさい。オルガンが来て、みんなよろこんだでしょう。しつかり練習する様に。折角あれだけ学校で習ったのですから。清子がよいお友達と学ぶことをぞみます。その点、何といつても立教の方が粒ゾロイでしょう。しかし気立てのいい子はどこにも居るはずです。馬鹿な子ではないのですから。やさしく、御飯のときなどにはおはなしをしながら導いて下さい。叱らない方がいいでしょう。母親のやさしい態度と心と言で長い間に自然感化する様にして下さい。Eの字の悪影響が多分にあると私は考えます。その点からも一日もはやく離れることです。ね。軍用行李がとどいて何よりでした。豆もあつたでしょう、みんなが大すきな。しかし東京では大豆が主食の様になっている由。疎開の有難きを感じなくてはなりません。とにかく同居の間は仲よく気持よく暮らして下さい。支那ナベは陳君に貸そうと思っていますが、必要なら、ことわりましょう。

私の着物は要りませんから、適当に使つて宜しいです。蚊帳は実は困っていますが、何でも熊本氏がうちのおばさんと相談してどしどし荷造りしたらしくあります。同氏にはしかしこちらからお礼をのべて置きます。ふとんは必要になったらおたのみしますから。それまで準備だけして置いて下さい。こんど東京へ出たら私は戸倉氏のカヤの中に入れてもらうより仕方ありません。或いは学校に宿泊するかも知れませんが、これは危険性もあるので、不便でも家から通いましょう。一週間位のことでしょうから。ワイシャツの件、おねがいします。開襟でも折襟づきでもよろしいです。（とにかく襟のない普通のワイシャツは上衣がよくなりますからよくありません）。こんど一ノ関へ行ったら着せてもらいましょうか。鉄瓶は家の壕に入っています。必要ならもつて行きましょう。重いけれども。ヤカンを一つ大きいものをもつて行きますか。そのヘンも返事して下さい。ヤカンの中にコーヒーポットを入れて行きますか。コーヒー茶碗も御入要なら。但しこの前の如くあんな重い荷物は夏ですからもてません。相当の程度限度にします。この間は、今考えても全くよくもてたものだと思ひます。東京はいよいよ本バカリとなりますね！（一ノ関アタリは50機も来て焼夷弾をばらまいたら大抵もえてしまうね。今現に、徳島、姫路のあたりをやっている様に。だから油断大敵なのです）。

主食物の御入手は結構なことです。子供たちが大きくなる様に。但し、一度に多くを与えぬ様に。いざ困るときの貯えを充分考えてつねに余裕のある様にして下さい。大切にうつかいなさい。こちらでも安心します。

清子や歌子が照雄と遊ぶように。そして、お母さんが自由に外を歩ける様に。だんだん癖をおつけなさい。自転車は僕が行ったら練習させてあげるから、必ず乗れる様になるの



だね。

信州へこれから移ることはしなくてよいだろう。一ノ関方面で町の中から出さえすればよい。心配は空爆によ火災ですから。藁葺きでない家に入ること。我々の学校も遠からず（東京の）、爆撃されるでしょう。却ってそれの方が将来のために有利だと思う。生徒の人命が大切だから。順子や子供たちは——僕もそうだが——これからの日本のために使命のある人たちだ。お祖母ちゃんたちはこれまでで人生はすんでいる人たち。むしろ石川の祖母ちゃんの方が覚悟がいいようだね。新町の祖母ちゃんが余り疎開さわぎをそちらでするのは人目にもよくない様に思う（これは順子にだけしか言えないことだけれども）、クリスチャンとしても小さい人々はたすけても、自分は世を終わった者だからという気持ちが出るべきであるのに、そういった言葉を聞いたことのないのは寂しい感じがする。老人がそういえば、また若い者はそれを保護してあげる気になるものを、却って反対な感じを人にもたせることは宜しくないであろう。順子はよく信仰の立場を堅持して、祖母ちゃんの悪いところをまねしてはいけません。

なかなかいそがしいね。順子の身体は大切だから無理はしてはいけない。洗濯板やまな板の件、なるべく持つてゆくことにしよう。

戦争の将来を思うと、深い祈りにさそわれる。藤井先生の予言やあの絶筆の言が今になると意味が深い。章さんから何とも返事がない。泰ちゃんからも。あの辺の郵便局が焼けているためかも知れぬ。

昭和から5月、6月の俸給がとどくかも知れぬ。

赤十字外事部は諏訪湖畔に移りました。赤十字は僕は事実上無俸給となるでしょう。関係は絶たぬつもりですが。ボナスは（前半期の）もらえると思いますが。火災保険の証書はこちらでもらいましたから御安心下さい。

石井さんの手紙たしかに拝見しました。

Ich umarme Dich! Auf wieder sehen!

〔僕は君を抱擁する！ さようなら！〕

*

清子！ お手紙うれしくよみました。もう泳いだとのこと、驚きました。お山はまだそんなに暑くありませんから。川で溺れたりしない様に注意なさい。

蛭狩りは楽しかったでしょう。お父サンも小さい時のことを想い出します。

清子チャンはよいお友達とお遊びなさい。気持のよい優しいお友達とね。そして清子ちゃんもここにこした優しい人になって下さい。歌子チャンや信雄チャンや照雄チャンを本当に可愛いがつて下さい。自分で人をよろこばせることは、自分も愉快なことなのです。清子チャンがそうするとみんなもお姉サンお姉サンと慕ってくれますし、お母様もどんなに可愛いがつて下さるでしょう。お家の中がいつもあたたかく、賑やかに愉快である様に！

そうすればお父サンは遠くに居ても本当にうれしいのです。

このお山もそろそろ夏らしくなつて来ました。野ばらが咲いています。野ばらというのは灌木といってお父サンの身の丈位までの木のことを言います。それからあやめも沢山咲いています。浅間山はこの夏は静かに煙を吐いています。別所の秋を想い出すでしょう。昔のお友達と時にはおたよりをしますか。先生にも時折お書きなさい。ではいい子で、お父サンがゆくときまで。オルガンをしっかりと練習なさい。7月5日、お父サンから。

歌子ちゃん。

お手紙有難う。可愛い紙片に書きましたね。蛭が一匹とれたということですね。可愛い虫でしょう。草でも花でも虫でも、よくごらんなさい。自然というものは面白いものから。野も山も川も星も月も日も犬も猫も、そういうお家のそとで、人間がつくったものでないものはみんな自然というもののなのです。

お姉サンや弟たちと面白くあそんでいますね。御勉強もしっかりして下さい。ごはんのときは何でもいただいていますか。こんどは暑い暑い夏にみんなのところへゆきます。こんどこそはみんなとあそびたいものです。お父サンから。

信雄ちゃん。

三輪車がといてよかったね。祐ちゃんにも載せてあげていますね。照雄ちゃんは未だ乗れないでしょうが、秋になったら照雄ちゃんものれるでしょう。よーちえんでは何をまなんでいますか。おうちへかえつてからは、ご本もよんでいますね。一ノ関でもケイホーがなるようになったでしょう。戦争にかつまで、しっかりとべんきようもし、うんどーもなさい。おかあさまから時々、みんなでおもしろいおはなしをおききなさい！お父サンから。

照雄ちゃん。

いい子だね、おねーさんやおにーさんとおあそびなさい。おっぱいばかりのまないで。お父サンから。

*

清子ちゃん。

お手紙有難う。みんなで楽しい御馳走になった由、よかったね。英霊のこと、戦争はまだまだ烈しくなりますから、清子ちゃんたちもお母さまを助けてしっかりとして下さい。強い心と丈夫な身体をつくる様に。お父サンもこの頃、とても元気ですから安心して下さい。和歌ははじめてつくつたのですか。自然によく出来ていますが、立派な歌を沢山におぼえて、だんだん上手になるのですね。お父サンなどは小さいときとても歌などはつくれなかったね。よく勉強して下さい。

歌子ちゃん。

おたよりありがとう。絵も有難う。字が大分上手になりましたか。もつとうまくなるように。お父サンみたいになへタな字のまねをしない様に。お母サンもみんなにうれしいものをたべ

させてあげたいのですが、戦争だからガマンをしなければならぬのでもあります。でもおなかがすけばなんでもおいしいはずですよ。何でもおたべなさい。大分、あつくまりました。川などにおちない様にして下さい、水のきわであそぶときに。それでは御キゲンヨ。

信雄ちゃん。

おたよりとえとありがとう。えはぐんかんとひこーきばかりかかないで、ほかのものもかいてごらんなさい。えほんをみたり、そとでみたものなどをかいてごらんなさい。じもよくかきますね。ごほんもだんだんよむように。なんべんでもおよみなさい。またそのうちにゆきましよう。大きくなつてください。てるおちゃんとなかよくあそびますか。てるおちゃんによろしく。では、みなさんサヨナラ。お父さんから。

——1945年7月9日——

7月6日付のおたより有難う。僕の手紙が前後してとどくこともあるらしいですね。お姉さん二人に対して男の子が小さいから信雄に一寸特別便をやったらやつぱりそうかね。上野さんに何か考えて一寸お見舞をあげたらいいでしょう。外交をうまく、時の野菜をいただく様にするのだね。それにしてもFの所にありそうなもの、何しろあきれる。

西の方では数十機が来襲すると全部全市は殆ど灰燼に帰してしまうとの話はなし。東北も決して油断ならない。空襲は一日一夜で全く相貌を変じたものにしてしまうし、うちのように小さい子が居ると人命そのものすらあぶないから充分用心！今は適当でも何もなし。新町のおばあちゃんなんか相手にしては駄目。あり次第、間借りでもよいから、とにかく即決即刻おうつりなさい。荷物は必要なものだけまず移すこと。こうなつてくると、荷車も台八もなかなかおいそれとなかうと思う。少し時機がおそくなつて来たから、断然お急ぎなさい。僕は20日まではもう行けぬ状況になつて来た。授業がまた17日頃まであるから。授業は余程のことがないと休むわけに行かぬ。授業がなく演習ばかりやつているときは休暇が以前より楽にとれる様になつた。多分20日に帰京（或いは21日に）、それから卒業式まで約一週間あるから、その間に用さえあればゆく。用がなければ卒業式後には必ずゆけると思う。或いは多分27日、しかし、みんな東京にボヤボヤ10日間も居て、折角の生徒にことがなければよいかとブツブツ言っている。むしろ上の方のアタマのキリカエが欲しいものだ。この山で卒業式をして、直ちに次の目的地へ行けばわざわざ東京へもどる必要もないのに。兄さんが総監部に居れば何とか進言してやるのだが。

持つてゆくべき品々の件、出来るだけでもつてゆく。安心して下さい。Rがゆたかになつてこつちも安心する。皆が太るように。おばあちゃんに食われるなよ、なかなかケンタンだから、アハハ……。順子は子供が多いのだから、身体に無理が入つてはいけません。町会



のことは適当にズベルべし。身体の具合が悪いと言って。それはウソでない。ブレーキをかけるのだからよろしい。病気になるってからサワイでも詮方なしである。Fの如きはズーズーしいのだろうと思う。本当に自愛してもらいたい。

疎開の件は、どうしてもなければ、ほかへ疎開する人の家でも位置が今より外側でカワラ屋根なら、ひとまずそういうところへ移ってもよいと思う。上野サンあたり知らないかしら。また、いつかおもいをいただいたお医者サンのお友達はどうかね。四方に手を廻さぬと駄目ですね。やっているとと思うけれど。

一昨日は会食をやつて、三重の塔をたいらげた。何の意味かわかるかね。オゼンの三重ねざ。われながらあきれる。ロシヤ語の伊藤という巨人は四重の塔。あとは大抵二重。こういう馬鹿げたこともたまにはゆるしてもらうかね。

ボの字はこんどのホーキューと共にいただく。日赤の6月の俸給とボの字は保サンから今に東京で受けとつて、もつてゆくことにする。送金は不確実で駄目だそうである。昭和も一度行く。そしてもらつて来よう。それで両者もおしまいかも知れぬ。事実上、僕は東京には居ないのだから。しかし関係は保留して置くつもりである。空襲が烈しくなつて、関東平野を通るのが必ずしも安全でない。なるべく夜行でゆくことにしよう。

昨日は吾妻山に登った。行程8里余の山路。夜は会食。詳しいことは子供へのタヨリに書こう。

塚本先生からお返事があつたから同封して置こう。ハガキはとつて置くように。折りを得たら一度おたよりをなさい。今日は中隊長区隊長と会食。豪華版のはず。明日は語学の研究会のあとで語学の会食。どうも4晩も会食つづき、破産しそうだね。この間は校長閣下が来られて、三等官以上と中隊長らとの会食。いろいろ面白いはなしもあるが、これは会つたときにしよう。

順子よ！ Ich umarme Dich!（僕は君を抱きしめる！） 辰雄 7月9日。

——1945年7月14日——

順子！ 1945年7月14日！ 辰雄。

今日は藤井先生の日であります。あの新町の先生のお宅で聖書の真理を、先生から直接教えていただいた昔を心から想い起こしましょう。我々二人を結んだのはあの霊の講筵であつたわけです。私が順子を勝手にえらんだのではなく、神様が私に順子を与え順子に辰雄を授け給うたのです。その摂理があ先生の集まりの室にあつたことを今にしてしみじみ思います。それ故に私達は普通の結婚とはちがった特別な使命を帯びている結婚をしたわけです。聖書の真理が我々を結んだのです。大学に入学したときの最初の日曜日に先生



から『聖書之結婚観』をいただいたことも奇しきことです。先生の生き方とあの信心とあの結婚観に我らは徹しなければなりませんし、それをともかく実行していることは感謝すべきことです。そして、いよいよそれは堅きを加えているのをお互いに信じています。

順子が肉親の親からも兄弟姉妹からも離れた人であることは私にとつて不思議な運命です。謂わば私は天から与えられた一人の純乎たる女性を、エバの様な天来の女性を与えられた様に思います。こんな不思議な結婚ありません。順子は私にとつて世界に唯一人しかいない特別な女性です。ですから順子も自己の不思議な存在を自覚して、天来の女性の様な天的な人格であつて下さい。そして順子はこの頃、とくに僕の気持に合い、僕を強く愛する様になりつつあるのを心からよこんでいます。そして、僕と信仰と希望と忍耐とを一つにし、愛と信頼を以て一つに結ばれましょう。私は遠くにあつても一つも不安がありません。順子の人格の僕に対する信頼と愛とを信ずるが故に。僕の使命の完成を、そのために僕の一身が護られんことをつねに祈つていて下さい。祈りの妻！ 愛の母！ として一ノ関の城を堅く護つていて下さい。小さい子供たちの愛の泉であり、信頼の城であつて下さい！

幸にしてこの戦争の終局まで僕が身を完うし得たあかつきには、僕はいよいよ今の職を棄て、順子と共に福音のため全力を尽くしたいと覚悟いたしました。このことを順子も僕に誓つて下さい。それが如何なる道と方途に於て与えられるかは今からわかりません。しかし、もはやうたがう余地なき我らの道であります。その準備のため今からしつかり聖書の勉強もして下さい。藤井先生のものもよみなおして下さい。

私たちの結婚の日が、皇太子殿下の御誕生日であつたことも奇しき御恩恵です。自覚と使命観を新たにいたしました。『神の幕屋』を詠わんとする私の使命はいいかげんなものではなく、私の存在も重いのです。必ず神様は護つて下さいます。私たちが、ま心こめて努力する限り、信頼し奉る限り。

昨夕、浅間山が突然、大噴煙を吐きました。壮観でした。しかし、火の柱が立つほどではありませんでした。多分、昨秋、清子が別所で観たものの方が大きかったでしょう。

東北地方へもBだのPだのが来襲している模様で、一ノ関も決して油断ならぬ情勢となりました。一日も速く移転して下さい。とりあえずオバアチャンの方へ荷物を疎開させた方が宜しいと思います。或いは上野サンのところへ置かしていただければ更によいと思います。是非、そうして置きなさい！

防空壕を完備して、そこへもお置きなさい。室の中のものはいざ空襲という場合には殆ど出せるものではありませんから。

機銃掃射がなかなか油断ならぬものですから、充分注意して下さい。壕のエンガイは相当あつくする必要があります。極めて重要な物件、物品の搬出は必ず出来る様に普段から万全の準備をして置くように。



子供が多いのですから、順子は町会関係のことは御辞退なさい。無理をしてはいけません。つまりらぬ形式的なことは不快（病気）といつて断つてかまいません。行動は最も内面的な、必然によっておとりなさい。人のおもわくの如きは苦にする必要があります。そのかわり働くときにしつかり働いてやればよいのです。

空襲の危険あるときは、子供のことを考えて、順子自身、危険なところに居ない様に賢明に行動して下さい。

お米など食糧品は（ストックして置くべきものを）焼かぬ様に。地窖をつくり、埋め、よくふたをして土をかけて置くこと。

ここ数日でハッキリしたことはわかるでしょうが、我々はさきに中之条へ行き、冬にまたここへ来るかも知れませんが、出来れば、卒業式までに一度一ノ関をたずねたいのですが未定。大分旅行も物騒になって来ましたが、昼間はあついで夜行でゆくでしょう、いつもの如く。しかし、常磐線が相当危険になって来たので、本線にしなければならぬかも知れません。仙台も焼かれたらしく、山本などもどうかと案ぜられます。みんなが卒業式などは当地でやればよいのにと云っていますが、上の方がワカラズやなのでしょう。どうも形式主義が多くて困ります。

とにかく、会えるのももう一度乎ということに現実はなつて来ました。いよいよ……です。すね。

独乙の関根君が帰つて来て（7月7日らしい）、ハガキをよこしました。「宜しく」といつて来ましたのでおつたえします。僕にすぐあえなくて残念だとありました。私も東京へ行つて唯一つの楽しみは関根君にあえることでドイツとヨーロッパの様子をくわしくききたいと思つています。金沢先生は千ヶ瀧へ来られ、奥様も今ごろは来られているでしょう。松田君が今日か明日くらい遊びにくるかも知れません。

順子！ わが永遠の伴侶、とこしえの愛、神汝らと共に。

辰雄。

